

校長室から平成31年1月10日

「これまで」そして「これから」

生徒の皆さん、そして保護者の皆様、新年あけましておめでとうございます。例年より若干長かった冬休みが明け、新しい年が始まりました。8日(火)の朝、集会に臨む生徒たちが、心身共に健康で、無事に学校に戻ってきてくれた事を大変うれしく思います。

いよいよ平成最後の年となりました。太平洋側は穏やかな元旦で、初日の出が美しく輝き、私自身とても晴れやかな気持ちになりました。この年末年始は、マスコミ等で、平成の30年間を振り返る企画が多く、「戦争がなく平和な時代だった。」というプラスのものから「昭和のつけを払わせられた、失われた〇〇年だった。」というマイナスのものまで、いわゆる激動の時代だった事が言われています。

私達の多くは、一年の始まりや、学期の始まり等、何らかのスタートを切る時に、「こんな事をしてみよう。」「こんな一年にしていこう。」と目標や希望を持ち、実践しようとしています。今年は平成から次の元号に変わる事もあり、なおさらでしょう。人の一生はずっと続いているので、簡単には過去と今、そして未来を考える事は難しい事だとは思いますが、ひとつの区切りとして、また、スタートとして自分自身の内面や行動を再考するのもよい事だと思います。

年末年始の新聞や、書物を読んでいると、著名人の挫折やそれを克服する過程での苦悩、そして今の生き方、考え方などが紹介されていました。印象に残ったものを紹介してみます。

- 人生には、コントロールできないこともある。そんな時に無理をしてあげたら、自分を見失ってしまう。「大変な事があっても精一杯やっていたら、いつかいい日が来る。」と思い、暮らしている。自分自身の魔法の言葉は「なんとかなる。」
- 生きてると、どうしても気持ちが焦ってしまうことがある。でも、そんな時も、隣にいる人と他愛もないおしゃべりができるくらいの「歩くような速さ」を忘れず、一歩ずつ、ひとつ、ひとつ、進んでいけたらいいなと思う。
- 僕には「大丈夫」という心の強さはない。心が強いという事だけがいいことだとは思いません。諦めたり、逃げたり、挫けたり、心配したり。そういうのを弱いというのかもしれませんが、弱いなら、弱いなりの生き方でいいと、僕は思う。
- 私は、アスリートなのにどうしてこんなに心が弱いんだろう。ケガをした私がいなくてもチームは勝つし、私がいなくても強いチームになっていく。それがつらくて、頑張っている仲間の応援すらできない。「自分はなんていやな人間なんだろう。」「もうチームには必要ない人間だ。」とチームメイトと距離を置き、現役引退しました。でも今は、全国各地でバレーボール教室に参加してくれる子どもたちがいて、必要とされている事がすごくうれしい。むしろケガをして良かったと思う。
- 私達は、「落ち込むことは悪い事だ」と考えがちです。でも落ち込むからこそ、ブレーキがかかり、疲れた心にムチを打って突っ走ることをさせられます。「心が強い」と過信して無理を重ねると、ある日、突然限界がきて、ポキリと心が折れてしまう事があるのです。

様々な苦悩を経験して、今、たどりついている心境は奥が深いですね。皆さんも、まだ中学生ですが、「これまでの自分」を振り返りながら、「これからの自分」を考えてみることによって、生きるヒントや小さな目標が見つかるかもしれません。「強い自分」「たくましい自分」それだけではない、「心の弱さや欠点もすべて持ち合わせた自分」とつきあい、少しずつ克服しながら生きていく事も大切な事だと思います。私自身も欠点だらけの自分を認めつつ、少しずつ克服しながら今年一年、皆さんと共に過ごしていきたいと思えます。